

お子さんの少し先の未来を考えてみよう

心に留めておいて・・・「小1プロブレム」

学校法人宮沢学園富田幼稚園
園長補佐 星 峰 夫

「プロブレム」とは、問題や課題を指す単語ですので、「小1プロブレム」とは、小学校1年生段階における子どもたちの問題行動や課題のことを表しています。これから入園、或いは在園間もないご家庭では、小学校への就学は少し先の出来事のように感じられますね。ただ、今からでも早すぎることはありませんので、保護者の皆様の心に留めおいていただき、小1プロブレムの無いお子様の小学校入学を待ち望めるよう心から願っております。

1 どんな問題が起きているの？

小1プロブレムといわれる具体的な行動とはどのようなもののでしょうか？この問題が話題になりだしたのは、1990年代からです。ちょうど私の教員時代と重なる問題で、小学校37年の教職経験の中で見聞きした私の小1プロブレム経験は次のようなものです。

- ・ 授業時間や休み時間といった時間を守らない
- ・ 先生の話を受けない
- ・ 授業中、座学ができずに席を立ってしまう
- ・ 注意されても遊んでしまう（ルールを守れない）

子どもたちの中にこのような行動を示す子どもが現れ、担任はその対応に追われることになります。

すると、その現象は他の子どもにも伝わり、いわゆる学級崩壊状態に陥ってしまうのです。

もちろん、学校では校長先生を中心に可及的速やかに対応策をまとめ、複数の教員が加わって学級の安定や子どもたちの学ぶ姿の定着に努めるのですが、嵐が去って青空が広がるような状況にはなかなかならず、かなりの時間とエネルギーを費やすことになります。

2 原因は何でしょう？

小1プロブレムの一番の原因は、子どもを取り巻く「環境の変化」に子どもたちが対応しきれないことです。下の表をご覧ください。

幼稚園・保育園	小学校
自発的な行動が重視され、自分の興味関心に沿った行動がとれる。	個よりも集団行動が中心となり、時間割に沿った行動が大切になる
限られた範囲での人間関係の中で過ごす	新たな人間関係を構築する必要がある
教師や友だちと一緒に遊ぶことがメイン	決められた時間の中で勉強することがメイン

他にも、画一的な教育から自主性を重視した教育への変化といった教育方針の多様化、子ども自身のストレス耐性が低下し、必要以上に傷ついたり、心が折れたりしてしまう子どもが増えています。

3 今からできる解決策・予防策はないのでしょうか？

日頃の子育ての中で、ちょっとずつ少し先の将来を見通した取り組み（子育て）ができれば安心ですね。しかも、その取り組みが解決策・予防策となればそれに越したことはありません。取り組み例については、関連著書も多数ありますが、私の経験上、効果が大きかったものを挙げてみたいと思います。

- 子どもが人間関係で躓かないよう、同年代の子とも積極的に交流する機会を作りましょう。同年代の子どもたちとの遊びを通して、仲良くしたり、協力したりしながら遊ぶことを学べます。
- 時間を決めて遊ぶなど、子どもが時間を守って生活するように意識させましょう。小学校での時間割による生活にも対応できるようになります。
- 基本的な生活習慣を身に付けさせましょう。あいさつをする、時間を守る、3食しっかり取るなど、習慣化を図ることで、自分で考え行動できるようになります。
- 子どもを褒めて自己肯定感を高めてあげましょう。子どもは（大人もそうですが）褒められることで自分の行動に自信を持てるようになります。自信は新たな環境に進むためのエネルギーになります。
- 様々な体験や活動を通じて子どもの興味や好奇心を刺激しましょう。そうすることで子どもの創造力や自己表現力が育ち、新しい物事への興味や積極性を引き出せます。

このような取り組みを通すことで、子どもは環境の変化に対応しやすくなります。これって子どもの人生にとって素敵な贈り物になるのではないのでしょうか。

4 このお話の最後に

「卒園児には小1プロブレムが起きてほしくない!」、幼稚園や保育園の職員は全員この思いを抱き、日々子どもたちに寄り添いながら丁寧な保育に励んでいます。

私の勤務する富田幼稚園でも小学校就学を視野に入れ、子どもたちが環境の変化に対応できるカリキュラムを実践しています。また、近隣の小学校との互恵性のある連携づくり《幼保小連携》にも力を入れています（このことについてはまた後日掲載できればと思います）。

このような子供の将来を見据えた保育を展開することで、子どもたち、特に年長児は、小学校で経験する様々なことへのワクワク感を高め、小学校入学ついて首を長くして待っています。その顔には、これから迎える新たなステップへの意欲と希望が溢れています。